小児総合医療センター

〒 183-8561
東京都府中市武蔵台二丁目 8 番 29 号
電話　042-300-5111（代表）

病院の概要

臨床、教育、研究面で国内外に発信することを目標にする病床規模日本一（561 床）の小児専門病院です。総合診療科の他に、救命救急科や心療内科、内科系専門診療各科、新生児科、集中治療科、児童・思春期精神科（家族支援部門を含む）、および外科系専門診療各科が揃っており、幅広い患者さんを診ている病院です。その中で総合診療科は、救命救急科と協力して病院の窓口機能を担当しています。このような特徴から、一般小児科から、内科系専門診療科まで、幅広い研修が出来ます。また、シニアレジデントの教育は病院の根幹のテーマです。屋根瓦方式の“教えることで自ら学ぶ”ことを中心とした日々の教育とともに、専門診療科スタッフが総合診療科に加わる交流など、病院全体で教育に取り組んでいます。研究面では、臨床研究を支える部門が研究支援（計画、統計解析）をしているため、レジデントの学年研究のみならず、さまざまな研究に対するサポートを得られる体制が整っています。

■ 診療科目

総合診療科　心療内科　循環器科　内分泌・代謝科　血液・腫瘍科　腎臓・リウマチ膠原病科　神経内科
呼吸器科　結核科　感染症科　免疫科　消化器科　アレルギー科　臨床遺伝科　外科　心臓血管外科
泌尿器科　整形外科　形成外科　脳神経外科　眼科　耳鼻いんこう科　皮膚科　小児歯科　矯正歯科
臓器移植科　病理診断科　検査科　診療放射線科　麻酔科　児童・思春期精神科　集中治療科　救命救急科
新生児科　リハビリテーション科　心理・福祉科　在宅診療科　臨床試験科　遺伝子研究科

■ 基幹施設となる診療科　（括弧内は連携施設病院）

- 小児科　（広尾 / 大塚 / 豊島 / 荏原 / 多摩北 / 立川相互病院 / 松戸市立総合医療センター / 山梨大学連携病院）
- 精神科　（多摩総合 / 松沢 / 多摩あおば病院）

■ 連携施設となる診療科　（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- 外科　（墨東 / 多摩総合）
- 小児科　（大塚 / 墨東）
- 精神科　（豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 松沢）
- 整形外科　（多摩総合）
- 麻酔科　（広尾 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 墨東 / 多摩総合 / 東部）
- 耳鼻咽喉科　（多摩総合）
- 泌尿器科　（駒込）
- 病理科　（多摩総合）
- 放射線科　（駒込 / 多摩総合）
- 救急科　（墨東 / 多摩総合）
- 総合診療　（駒込 / 多摩総合）

（成育、埼玉、千葉の子ども病院との合同勉強会風景）

臨床研修委員会委員長及びシニアレジデントのひとこと

臨床研修委員会委員長からのひとこと

総合診療科部長
幡谷　浩史

当院は小児専門病院であり、また北米型 ER により 1 ～ 3 次救急を担っています。この 2 点が当院における小児科研修の特徴を形作ります。

総合診療科は研修の中核であり、小児科の基礎を学びます。3.5 万人（2022 年度）の ER 受診症例は、common disease から稀な疾患まで実に多彩です。症例数が多いと言うことは、同じ疾患でも違うバリエーションに出会うことができ、疾患をより深く学ぶことができます。川崎病を例に挙げれば、年 100 症例を超える中には不全型や治療不応症例などが混じってきます。

2 年目を中心に回る専門診療科の研修は、各学会の第一線で活躍する先生方と、専門研修に来ている若手に囲まれ、専門分野について基礎から最先端までの幅広い知識に触れることができます。また、総合診療科に戻ってきたときに学んだことを後輩に教える（屋根瓦方式）ことで、知識を確かなものにすることができます。

アカデミーで行う 2 年生の研究発表会とともに、1 年生と 3 年生は院内で地方会同様 6 分間の oral presentation の発表会を行います。院長・副院長・コメディカルの代表も参加し、優秀な演題を表彰します。

学年全員で協力し、前向きの臨床研究を行うのも特徴の一つです。Clinical question を持ち寄り、臨床試験科のサポートを受けながら、3 年間掛けて作り上げていきます。

メンター制度、レクチャーのコアカリキュラム化、カンファシステム変更など、みんなで研修の見直し・改善を行ってます。3 年間、楽なことばかりではありませんが、子どもと家族の笑顔のために、一緒に研鑽しませんか？

シニアレジデントからのひとこと①

小児科コース
令和４年度修了
板垣　考洋

小児科専攻医の研修環境として求めることは何でしょうか？十分な臨床経験を積むこと、充実した教育体制があること、できれば研究もやってみたい、など考え始めたら様々な希望が湧き出てくるかもしれません。当院の小児科研修は、臨床・研究・教育の三本柱を網羅したプログラムになっています。

臨床面ではこども病院として多種多様で複雑な病態を有する患者はもちろん、肺炎、喘息、尿路感染症、川崎病など一般小児科で経験する common disease を経験出来ます。特に救命救急科では軽症から重症まで外傷を含む幅広い症例を経験します。こども病院にありがちな困難症例ばかりではなく、一般小児科研修の経験も積むことが出来る研修病院となっています。

研究面においては学年研究として 3 年間をかけて入職同期者と協働して一つの臨床研修を立案し実施します。臨床試験科をはじめとしたバックアップ体制があります。3 年間かけて一つの前向き研究を行い論文化する体制が整っています。

教育ではレジデントが主体となり後輩たちの指導を行い、屋根瓦式を用いたチーム形式で主体的に他者に説明・指導をしていきます。指導をする難しさと共に、教育の面白さ奥深さを経験することが出来ます。多彩な臨床経験をもつ診療スタッフの指導とフィードバックを受けながら、より充実した研修内容になるはずです。

小児科医を志した気持ちを胸に、臨床・研究・教育の三本柱を網羅した研修を当院で行ってみてはいかがでしょうか。

シニアレジデントからのひとこと②

精神科コース
2年次
髙瀬　菜々子

当院の研修の特徴としてはまず圧倒的な症例数です。当院は日本最大級の施設であり、６つの病棟（急性期、学童期、思春期、自閉症病棟など）に分かれております。1病棟あたり約半年間の研修の中で、その病棟の特色ごとの症例を集中的に経験することができます。また、早期の段階から外来業務を経験することができ、入院とは違う環境下での対応についても多くの症例を学ぶことができます。児童精神科は誰一人として同じ経過をたどる方はおらず、総合して判断する力が求められるため様々な症例を経験しておくことがよい診療へとつながるのではないでしょうか。指導体制についても病棟、外来ごとに指導医がついており、症例相談会や症例検討会、クルズスなど勉強会もレジデントを中心に企画して積極的に行っております。他の人の意見を聞くことで、解決策を見出すことや自分自身の振り返りの場となります。また、上級医の先生とも意見を交換しやすい環境であることもとても魅力的な点です。この分野には答えはなく、自分自身の力によって大きく左右されると強く感じます。時に自分の方針でよいのか不安になったり、自分自身を見つめ直すことが必要となったりすることがあります。辛いと感じることもありますが、その分やりがいは多いと思います。ぜひ一緒に子どもたちの心診療を学び考えてみませんか。皆様のお越しをお待ちしております。